

ジョン・トーレンス・テイトは1925年3月13日、米国ミネソタ州ミネアポリスで生まれた。彼はテキサス大学オースティン校の数学教授及びシド・W・リチャードソン・チェアの地位を退いたばかりである。

ジョン・テイトは1946年にハーヴァード・カレッジから学士号を授与され、1950年にエミール・アルティンの指導の下で書いた論文によりプリンストン大学から博士号を授与された。

テイトの科学への貢献は60年に及ぶ。彼はプリンストン大学の研究助手、講師(1950-53)、コロンビア大学の客員教授(1953-54)を務めた後、1954年からハーヴァード大学の教授として36年間教鞭をとった。1990年、最後の研究職としてテキサス大学オースティン校の数学教授及びシド・W・リチャードソン・チェアの地位に就いた。

テイトはカリフォルニア大学バークレー校、フランス、ビュレスユール＝イヴェットのフランス高等科学研究所、パリ大学オルセー校、プリンストン大学、パリ高等師範学校の客員研究職も務めた。

テイトは代数学的整数論及び代数的幾何学の関連分野に基本的な貢献をしてきた。また博士論文指導者として整数論の発展に深遠な影響を及ぼしてきた。テイトは2010年のアーベル賞を、アーベル賞委員会の言を引用すれば、「その整数論への甚大且つ永続的な影響力ゆえに」受賞する。

テイトは幼い頃から数学に興味を持ち、物理学の教授であった父の本に啓発されて、数学的パズルに大いなる関心を示しつつ成長した。彼は本で読んだアイデアが非常に気に入ったものの、大学では物理学を学ぼうと決意した。しかしプリンストン大学の一年生の時、既に自分が本当に傾倒しているのは数学だと気づいた。そして卒業研究を数学に転向することを許可され、1950年に博士号を授与された。

60年にわたってテイトは現代数学に足跡を記してきた。彼の名を冠した数学概念が極めて多いことから、彼の考え方が数学に及ぼしてきた影響の大きさを測ることができる。テイト・モジュール、テイト曲線、テイト・サイクル、ホッジ＝テイト分解、テイト・コホモロジー、セール＝テイト・パラメーター、ルービン＝テイト群、テイト跡、シャファレヴィッチ＝テイト群、ネロン＝テイトの高さ、等々が文献の中に見出される。

テイトには数多くの賞や栄誉が授与されてきた。早くも1956年、テイトはその整数論への顕著な貢献により米国数学会のコール賞を受賞した。1995年、米国数学会から終身業績へのスティール

賞を受賞した時、彼は「生涯数学に携われること自体が褒賞であるが、そのことを研究仲間たちから認められるのは喜ばしいことだ。」（米国数学会通知）と応えている。またテイトは、「その代数学的整数論における基本的概念の創出」を讃えられ、2002/2003年に佐藤幹夫とともにウルフ賞数学部門を受賞した。

テイトはスローン財団フェローシップ(1959 - 1961)及びグッゲンハイム・フェローシップ(1965-1966)を授与され、1962年にはストックホルム、また1970年にはニースにおいて、国際数学会の基調講演者として招かれた。1972年には米国数学会談話講演会の代表を務めた。

ジョン・テイトは1969年に米国立科学アカデミー会員に選ばれた。1992年にはフランス科学アカデミー外国人会員に任命され、1999年にはロンドン数学会の名誉会員に任命された。